JFA 第 37 回全日本 O-30 女子サッカー大会　参加報告

兵庫県サッカー協会 2 級審判員 畑中あずさ

目次

1. はじめに
2. 大会概要
3. 事前研修内容
4. 担当試合振り返り
5. 大会中研修会
6. 最後に

1. はじめに

3 月 13 日～3 月 15 日の 3 日間、時之栖スポーツセンター裾野グラウンド（静岡県裾野市）
で行われた「第 37 回全日本 O-30 女子サッカー大会」の参加報告をさせていただきます。
推薦していただいた関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様をはじめ、本研修会を主催・運営していただいたすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

2. 大会概要

【大会名】
第 37 回全日本 O-30 女子サッカー大会
【開催地】
時之栖スポーツセンター裾野グラウンド（静岡県裾野市）
【開催期間】
2026 年 3 月 13 日(金)～15 日(日)
【趣旨】
公益財団法人日本サッカー協会（以下「本協会」という）は、30 歳以上の女性を主な対象に普及を主目的として 本大会を開催する。本大会は、女性のサッカーの普及促進のため開催するものであり、大会に参加する女性が サッカーを通じて友好と親睦を深め、さらには、生涯スポーツとしてのレディースサッカーの浸透・発展に寄与することを目的とする。

3. 事前研修内容

3 月 3 日（火）に ZOOM にて，事前研修会が行われました．事前研修会では，大会要項の確認や競技規則に基づいた，サッカーの競技規則の精神の基本的な考え方より，美しい試合とは何か，審判員として何ができるかを考えました．

4. 担当試合振り返り

<1 日目>
日時: 2026 年 3 月 13 日(金) 11:30 キックオフ
会場: C ピッチ
対戦: 栗東 FC LIBRO vs 横須賀シーカルズ FC **結果**: 0-1
割当: 主審 引田理子 / 副審 畑中あずさ　富田昴誉 / 第 4 審　内藤崇文
インストラクター 西野照美氏
【振り返り】
副審として臨んだ本試合は、スピードがあり、接触も多くありましたが、特に難しい事象もなく、対応することができたと思います。しかしながら、ベンチ前の局面でタッチジャッジを誤ってしまい、試合のマネジメントを難しくしてしまった場面もありました。そのため、その後の判定では、落ち着いて見極めることを意識して行いました。主審の方の安定したレフリングのおかげで、問題なく試合を終えることができたと感じました。

日時: 2026 年 3 月 13 日(金) 15:30 キックオフ
会場: A ピッチ
対戦:SOCIOS.FC VENGA vs Arancio Giocare Fiore　**結果**: 3-0
割当: 主審 畑中あずさ / 副審 高木裕梨　内藤崇文 / 第 4 審　伴野弘大
インストラクター 渡辺典子
結果: 3-0
【振り返り】
本試合では、自分の課題が横の動きが少ないことを意識し、5 レーンのセンターゾーンに入らないことを目標として試合に臨みました。前半はチャレンジでき、幅とりながらプレーを見ることができました。ハーフタイムには、プレーとの距離が遠い、スプリントの後に止まっているという指摘をうけ、 後半では、スプリントの後にステップやジョグを入れることで、流れるように動くことを意識しました。 試合後には、運動量をもう少し増やし、常にジョグかスプリントをするように意識するようにアドバイスをいただきました．また、スローインのポイントやキックオフのときのポジションなど些細なところもきちんとさせていきたいとお話させていただきました。

< 2 日目>
日時: 2026 年 3 月 14 日(土) 11:00 キックオフ
会場: C ピッチ
対戦:FC EFFRONTE vs 栗東 FC LIBRO **結果**: 0-2
割当: 主審 畑中あずさ / 副審 土居れもん　小松澤耐 / 第 4 審　勝又弘樹
インストラクター 西野照美氏

【振り返り】
前日の研修会のテーマが動きの質を高めることであったことから、前日の反省を生かしながら、下がらない動きを徹底することを目標に行いました。しかしながら、試合は接触が多く、激しいものであり、動きの修正が上手くできず、思うように動くことのできないものとなりました。ハーフタイムには、動きに迷っている旨を伝え、争点を見ることだけにフォーカスするようにとアドバイスをいただき、後半に臨みました。しかし、思うように試合に順応できず、模索を繰り返す試合となりました。

日時: 2026 年 3 月 14 日(土) 15:30 キックオフ
会場: A ピッチ
対戦: ENSOW KUMAMOTO vs SOCIOS.FC VENGA　**結果**: 0-1
割当: 主審 村上優衣 / 副審 畑中あずさ　土屋静一郎 / 第 4 審　田中眞英
インストラクター 渡辺典子氏
【振り返り】
副審として臨んだ本試合は、選手にフラストレーションがたまりやすく、マネジメントやコントロールが必要な試合でした。フラストレーションがたまっている理由を考えるとてもいい機会になりました。ファウルの程度による対応法や、接触時のポジショニングなど副審をしながらも、多くのことを考えることができました。対象の選手だけでなく、いかに周りにもわかるように伝えるのか、知ることができました。

<3 日目>
日時: 2026 年 3 月 15 日(日) 9:30 キックオフ
会場: A ピッチ
対戦: FC EFFRONTE vs 広島 Jaken　**結果**: 5-3
割当: 主審 引田理子 / 副審 畑中あずさ　勝又弘樹 / 第 4 審　土居れもん
インストラクター 佐藤ゆみ氏
【振り返り】
副審として臨んだ本試合は、攻守の切り替わりが激しく、副審としてとても勉強になる試合となりました。交代も多く、4th との協力が必要な場面も多くありました。キャプテンマークの付け替えなど用具について、4th と協力し、交代を円滑に進めることができたように感じました。また、ハーフタイムにはサイドステップをし、フィールドと静態する時間を増やすようにアドバイスをいただき、後半には改善し、判定をより正確に行うことができたように感じました。

日時: 2026 年 3 月 15 日(日) 12:30 キックオフ
会場: A ピッチ
対戦: 栗東 FC LIBRO vs 横須賀シーカルズ FC　**結果**: 0-0
割当: 主審 土居れもん / 副審 勝又弘樹　畑中あずさ/ 第 4 審　杉崎美羽
インストラクター 西野照美氏
【振り返り】
副審として臨んだ本試合は、３位決定戦であり、白熱し、PK までもつれ込む結果となりました。前日の研修会で PK について学んでいたこともあり、選手の管理など副審として落ち着いて対応することができました。しかしながら、勝敗が決定する前に試合終了のホイッスルが鳴ってしまうなどのハプニングもあり、副審としてもう少し主審をアシスタントできたのではないかと悔しく思うシチュエーションもありました。審判チームとして、協力して判定することがなかなかできず、コミュニケーション不足を感じる試合となりました。

5. 大会中研修会

<1 日目>
一日目の研修会では、大会要項の確認や、試合までのシミュレーションを行いました。また、今回の研修会では，主体的に動き、自分で気づいて自分で動く。わからないことはすぐに確認することを意識して行動しようとお話をいただきました。

< 2 日目>
テーマ:動きの質を高める
攻守交代時に後退してしまうことのデメリットについて話しました。後退は「争点への関与の遅れ」や「他選手との接触」を招き、結果として状況判断の精度低下や信頼の喪失に繋がります。この根本原因は、プレーの予測不足にあることが明確になりました。
この課題に対し、「下がらざるを得ない状況を作らないこと」を前提とし、より良い動きを実現するための指針として「3 つの A（Aware：予兆への気づき、Alert：準備、Agile：俊敏な動作）」を学びました。これまで感覚に頼っていた動作を論理的に言語化できたことで、非常に有意義な機会となりました。

< 3 日目>
テーマ:PK
最終日の規定に基づき、PK 戦の手順を再確認しました。特に GK やキッカーへのコミュニケーション方法を共有できました。また、今大会は O-30 カテゴリーであり、急な交代やベンチの事情による一時離脱が想定されました。競技規則上、キッカーが自身の順番までにピッチに戻っていれば問題ないが、不在の場合は「失敗（ノーゴール）」として扱われるというルールを確認しました。試合の状況にあった具体的な対処法を学べ、円滑な試合運営において非常に有意義な時間となりました。

６．最後に

今回、第 37 回全日本 O-30 女子サッカー大会に参加させていただき、審判員としての試合中の動きを再確認し、事象の予測に基づいたポジショニングの追求において、多大な成長を実感することができました。
連日の試合とインストラクターの方々からのご指導を通じ、単にボールを追うのではなく、「3 つの A（Aware, Alert, Agile）」に基づいた準備の徹底や、スプリント後のステップワークによる「止まらない動き」の重要性など、具体的なスキルと意識の向上を図ることができました。
一方で、激しい試合展開における判断の迷いや、審判団内での連携不足など、自身の技術面および精神面において、まだまだ未熟であることを痛感する場面も多々ありました。しかし、この未熟さを明確に自覚できたことこそが、本研修会における最大の収穫であると考えております。
一つひとつの事象に論理的な根拠を持って対応できる審判員を目指し、今後より一層、審判活動に力を注いでい所存です。本研修会で得た貴重な経験と課題を糧に、関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に信頼していただける審判員へと成長できるよう、日々精進してまいります。
最後になりますが、今回の研修会に推薦していただいた関西サッカー協会ならびに 兵庫県サッカー協会の皆様、大会を円滑に運営していただいた大会関係者の皆様、全ての方々に心より感謝申し上げます。